

2022年11月22日

学生・教職員各位

ウエルネスセンター
所長 久保木 眞

「学内での新型コロナ感染者数急増、過去最多を更新」

感染者増加について10月中旬より繰り返し注意喚起を行ってまいりましたが、残念ながら昨日学内の感染者数が過去最多を更新しています(詳細はウエルネスセンターHP参照)。以下の理由で以前とは、全く異なる感染状況です。

- ① 学内での感染クラスターが発生したこと
- ② 学内での感染例がみられるようになったこと
- ③ 県内の感染者急増に伴い学外での感染例が増加していること
- ④ 感染第7波から教職員の感染例が確認されていること
- ⑤ 再感染例(2回感染した)が確認されたこと(学内で3例)

今まで感染しなかった人も、以下の理由から感染リスクが高まっています。

- ① 無症状感染者や無自覚感染者が存在すること
- ② 発症前は自分が感染しているとは思っていないこと、発症後に他人に感染させたことが分かるため
- ③ オミクロン対応ワクチンの追加接種率が極めて低率であることから、集団免疫が低下していること

感染拡大を防止するためには

① ワクチンの追加接種

学内でのワクチン接種率(推定)は、1、2回目が8割程度、3回目は4～5割程度、4回目のオミクロン対応ワクチンは、未だ1割未満。3、4回目未接種の方は、ウイルスの侵入をブロックできる中和抗体価が下がっており易感染状態にあり、周囲に感染者がいると容易に感染してしまいます。ワクチン接種後、中和抗体価が十分に上昇するには1か月程度を要します。12月、1月の最悪の感染状況から自身を守るためには、早めの接種を予定して下さい。

② 換気を怠らない

- 1) 学内で発生した感染クラスターの原因は、換気が行われていない閉鎖空間に長時間滞在したことが原因です。感染は、ウイルスを吸い込むことで起こります。
- 2) 常時換気を行って下さい(わずかに窓を開けておく、出入り口のドアを少し開けておく)。

- 3) 換気が困難な教室では、エアロピュアを必ず作動させて下さい(感染クラスターが発生した教室ではエアロピュアが作動していませんでした)。
 - 4) 複数人で車に乗る際は、必ず窓を少しだけ開けること。
 - 5) 閉鎖空間を避けること(カラオケ店やライブ会場など)
 - 6) 換気が不十分な飲食店の利用を控える(CO₂モニターがある飲食店は OK、狭い飲食店は避ける)
- ③ 教室内での昼食時には、
- 1) 換気を行う
 - 2) 着座位置記録(QR コード)を登録、机 1 つ分の間隔を空けること(隣り合ってすわらないこと)

ワクチン接種のメリット

- ① 感染を防ぐ効果が確認されている。
- ② 感染した場合でも、ワクチン未接種者に比べ症状は軽く回復も早い。後遺症の発生頻度も低率である。
- ③ 盛岡大学では学内で接種ができる。希望する人には解熱鎮痛剤を無償供与している。

ワクチン接種のデメリット

1～2 日の間、副反応があるが、解熱鎮痛剤で対処可能

感染した場合のメリットは何一つありません。

9 割の人は、激しい喉の痛みや発熱(38℃～40℃を超えることも救急搬送 2 件あり)で最短でも 1 週間、長引けば 2 週間もの自宅療養を余儀なくされます。

また、長期予後も不明です。ウイルス感染は、HPV(ヒトパピローマウイルス)感染では、将来子宮頸がんのリスクが、B 型、C 型肝炎ウイルス肝炎では、肝細胞癌のリスクがヘリコバクターピロリの感染では、胃潰瘍や胃がんのリスクがあります。新型コロナ感染症は、新興感染症であり、将来の影響は当然のことながら不明です。何事も予防が大切です。

如何なる方法をとってもウイルスを学内や家庭内に持ち込ませないようにすることは困難です。唯一の解決方法は、自分の周囲にウイルスがいても感染しないように注意することです。人にうつさないためには、マスクの着用と換気、うつらないためには換気とワクチンの追加接種が必要です。安心・安全な学内環境を整えるために皆様のご協力をお願いいたします。

ウエルネスセンターでは、ホームページ上で学内の感染状況(毎日 23 時時点までの感染状況を翌朝に更新)を学内向けに公表しています。今後、感染状況は一層深刻になると予想しています。学内の感染状況を確認の上、感染状況に応じた行動をとるようウエルネスセンターより重ねてお願いいたします。